

シンポジウム「日常会話コーパス」Ⅳ

日本語教育からみた『日本語日常会話コーパス』
と『昭和話し言葉コーパス』
—オラリティにまつわる言語資源の活用—

2019.03.4 (Mon.)

東洋大学 田中 祐輔

本報告では、1) 日本語教育において言語資源がどのように活用されてきたかを追いながら、『日本語日常会話コーパス』と『昭和話し言葉コーパス』の位置付けを確認します。2) その上で、両コーパスの活用事例について、日本語教科書との比較分析を通してお話し、オラリティに基づくコーパス研究が日本語教育研究分野の中でどのように位置付けられ、どのような可能性を持つのかを述べたいと思います。



歴史



位置
付け



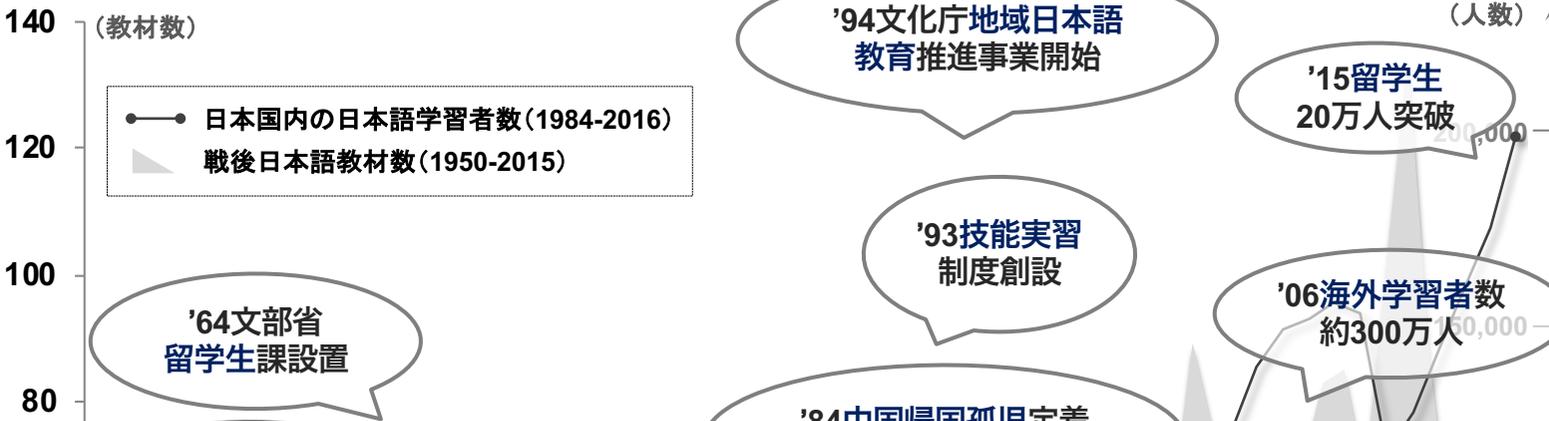
可能性

本日の流れ

1. 日本語教育と言語資源

2. 日本語日常会話コーパスの位置付け

3. オラリティにまつわる言語資源の可能性



戦後の日本語教育は時々社会的要請に対応してきた歩みを持ちますが、その中で「何を基準に実践するのか（何に基づいて語彙や文型を選び指導するのか）」という問題は一貫する最重要テーマでした。
 そこで、まずは戦後を大きく「復興期」「成長期」「安定期」に分けてその過程を追うことにします。



終戦～1950年代中頃

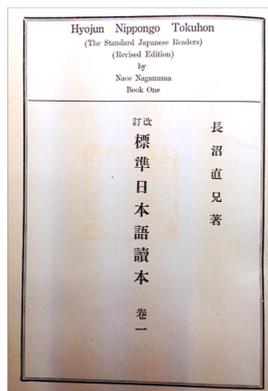
復興期に参照されたデータ

1. 終戦～1950年代中頃に参照されたデータ

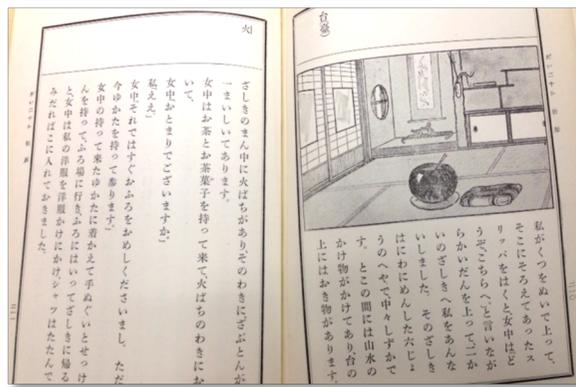
終戦直後の復興期は戦前に作成された資料や教材が参照され、例えば『日本語基本語彙』（国際文化振興会，1944）、『標準日本語讀本卷一』（長沼，1931）は直接的・間接的に用いられました。田中・川端（2018）によると、戦後は1955年に発行された『改訂標準日本語讀本』が戦後の“標準（スタンダード）”としての役割を果たし、1990年前後までの初級総合日本語教科書の語彙的特徴の基礎を形作りました。



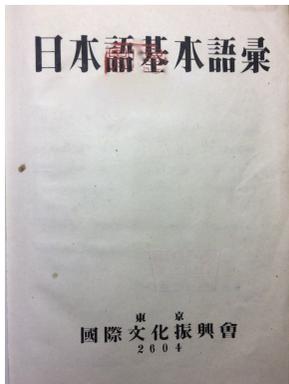
出典：国際文化振興会（1944）『日本語基本語彙』（発表者撮影）



出典：長沼直兄（1955）『改訂標準日本語讀本卷一』（発表者所有 / 発表者撮影）



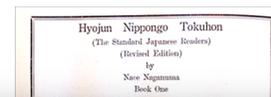
1. 終戦～1950年代中頃に参照されたデータ



出典：国際文化振興会（1944）
『日本語基本語彙』（発表者撮影）

『日本語基本語彙』（国際文化振興会，1944）
読本・辞典編纂の前提として、必要な基本語彙の調査、
選定に着手した。（p1）

『改訂標準日本語讀本』（長沼直兄，1955）



基本的語彙および、構文、会話用文等、口語の基本

復興期には日本語教育のために作成された
語彙リストや教科書が参照された。

出典：長沼直兄（1955）『標準日本語
読本巻一』（発表者所有 / 発表者撮影）



02

1960年代～1990年代

成長期に参照されたデータ

2. 1960年代～1990年代に参照されたデータ

成長期

日本語を学ぶ、あるいは教える際には、日本語の具体的な様相が明らかになっていなければなりません。その具体像を示すものとして、直接的・間接的に影響を与えたと考えられるのが**国立国語研究所をはじめとする研究機関や団体による語彙調査**です（次表）。



A-1	国立国語研究所（1950）『国立国語研究所資料集1八丈島の言語調査』
A-2	国立国語研究所（1952）『国立国語研究所資料集2 語彙調査－現代新聞用語の一例』
A-3	国立国語研究所（1953）『現代語の語彙調査 婦人雑誌の用語』
A-4	国立国語研究所（1960, 1963）『話しことばの文型(1),(2)』
A-5	国立国語研究所（1955）『談話語の実態』
A-6	国立国語研究所（1957-1958）『現代語の語彙調査：総合雑誌の用語 前編-後編』
A-7	国立国語研究所（1960）『総合雑誌の用字』
A-8	国立国語研究所（1962-1964）『現代雑誌九十種の用語用字』
A-9	国立国語研究所（1964）『分類語彙表』
A-10	国立国語研究所（1970-1973）『電子計算機による新聞の語彙調査1-4』
A-11	国立国語研究所編（1976）『現代新聞の漢字』
A-12	国語審議会中間答申（1979）『常用漢字表案』
A-13	内閣告示（1981）『常用漢字表』
A-14	新聞用語懇談会編（1981）『新聞用語集』
A-15	国立国語研究所（1983-1984）『高校教科書の語彙調査1-2』
A-16	国立国語研究所（1986）『中学校教科書の語彙調査I-II』
A-17	国立国語研究所（1987）『雑誌用語の変遷』
A-18	国立国語研究所（1989）『高校・中学校教科書の語彙調査 分析編』
A-19	文部省（1989）「学年別漢字配当表」（「小学校学習指導要領」別表）
A-20	国立国語研究所（1995-1999）『テレビ放送の語彙調査』
A-21	国立国語研究所（2001）『テレビ放送の語彙調査 語彙表』
A-22	国立国語研究所（2002）『現代雑誌の漢字調査』
A-23	国立国語研究所（2005）『現代雑誌の語彙調査1994年発行70誌』
A-24	国立国語研究所（2006）『現代雑誌の表記1994年発行70誌』

語彙調査と並行して**1960年代から日本語教育のための基本語彙**に関する検討が行われ、1970年代以降には**国立国語研究所日本語教育センター**も発足し、その調査は加速、成果は広く普及しました。

そして、1980年代に入ると日本語能力の統一基準も検討され、1990年代の『**日本語能力試験出題基準**』に発展しました。能力指標と、指導すべき語彙や文型が具体的に提示されたことで、その意味や用法について日本語教育に直接的に役立つ形で提示する**文型辞典**などもあらわれました。

これらは、限られた時間や物理的な制限の中で、**構造シラバスに基づき何をどのように教えるかを示すデータ**として機能しました。



- B-1 加藤彰彦（1963-1964）日本語教育における基礎学習語『日本語教育』2号・4-5号合併号
- B-2 玉村文郎（1970）『Practical Japanese-English dictionary』海外技術者研修協会
- B-3 文化庁国語課（1971）『外国人のための基本語用例辞典』大蔵省印刷局
- B-4 樺島忠夫・吉田弥寿夫（1971）留学生教育のための基本語彙表『日本語・日本文化』2，大阪外国語大学研究留学生別科
- B-5 国立国語研究所（1980）『日本人の知識階層における話ことばの実態』
- B-6 外国人の日本語能力に関する調査研究協力者会議（1982）『外国人留学生の日本語能力の標準と測定に関する調査研究について』
- B-7 国立国語研究所日本語教育センター（1978）『日本語教育基本語彙第一次集計資料—2,000語』（第一研究室内部資料）
- B-8 国立国語研究所（1979）『日本語教育語彙資料(1) (20—低学年初級500語)』
- B-9 国立国語研究所（1982）『日本語教育基本語彙七種比較対照表』〈「七種対照」〉
- B-10 外国人の日本語能力に関する調査研究協力者会議（1982）『外国人留学生の日本語能力の標準と測定に関する調査研究について』
- B-11 国立国語研究所（1984）『日本語教育のための基本語彙調査』〈「基本調査」〉
- B-12 駒田聡・佐藤恭子・鈴木睦・砂川有里子・三牧陽子・渡邊裕子編（1990）『中・上級日本語教科書文型索引』くろしお出版
- B-13 日本語教育学会編（1991）『日本語テストハンドブック』大修館書店
- B-14 日本語教育学会編（1991）『日本語教育機関におけるコース・デザイン』日人社
- B-15 国際交流基金・日本国際教育協会（1993）『日本語能力試験出題基準』凡人社
- B-16 市川保子（1997）『日本語誤用例文小辞典』イセブ
- B-17 グループジャマシイ（1998）『日本語文型辞典』くろしお出版
- B-18 上藤真由美（1999）『児童生徒に対する日本語教育のための基本語彙調査』ひつじ書房
- B-19 松岡弘 [監修]・庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘 [著]（2000）『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- B-20 白川博之 [監修]・庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘 [著]（2001）『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- B-21 玉村文郎（2003）『中級用語彙—基本4000語—』〈「基本四千」〉
- B-22 市川保子（2005）『日本語誤用例文小辞典（続）』イセブ
- B-23 市川保子（2005）『初級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク
- B-24 市川保子（2007）『中級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク
- B-25 アスク出版編集部（2008）『“生きた”例文で学ぶ 日本語表現文型辞典』アスク出版
- B-26 大阪YMCA（2008）『くらべてわかる日本語表現文型辞典』ジェイ・リサーチ出版
- B-27 山内博之 [編著]（2008）『日本語教育スタンダード試案 語彙』ひつじ書房
- B-28 国立国語研究所（2009）『日本語教育基本語彙データベース』
- B-29 市川保子（2010）『日本語誤用辞典—外国人学習者の誤用から学ぶ日本語の意味用法と指導のポイント』スリーエーネットワーク
- B-30 山内博之 [編]・橋本直幸・金庭久美子・田尻由美子・山内博之 [著]（2013）『実践日本語教育スタンダード』ひつじ書房
- B-31 砂川有里子・李在鎬・川村よし子・今井新悟・杉本武・長谷部陽一郎・高原真理（2015）『日本語教育語彙表』

『日本語能力試験出題基準』（国際交流基金・日本国際教育協会，1993）



教科書に提出されている文字・語彙を調査・集計して、これまでになされた日本語教育に関する語彙調査資料をも参考に3、4級の出題基準を作成した。
(中略) [※1、2級の語彙については] 語彙調査の資料を基に、これに日本語教育の立場からの修正を加えることによって「出題基準」を作成することにした。(pp1-2 総説)

出典：『日本語能力試験出題基準』
(発表者所有 / 発表者撮影)

『日本語文型辞典』（グループ・ジャマシイ，1998）

成長期には、既往の教科書や語彙調査を基に作成された『日本語能力試験1・2級レベルの出題基準サンプル「文法的な機能語の類」に収められた文型の9へくに新聞・雑誌・小説・マンガ・アニメなどから採られた文型』や、『日本語能力試験出題基準』や、それに基づく『文型辞典』などを通し言語資源が“間接的に”活用された。



出典：『日本語文型辞典』
(発表者所有 / 発表者撮影)



03

2000年代～2010年代

安定期に参照されたデータ

C-1	D.A.Wilkins (1972) 『The Linguistic and Situational Content of the Common Core in a Unit/Credit System. 』
C-2	Van EK (1975) 『The Threshold Level』
C-3	D.A.Wilkins (1976) 『National Syllabuses』
C-4	Van EK (1977・1991) 『Waystage Level』
C-5	Curriculum Development Centre (1988) 『Australian Language Level Guideline』 (All Guideline)
C-6	「Common European Framework of Reference for Languages (ヨーロッパ言語共通参照枠, CEFR)」 (欧州評議会Council of Europe, 1996・1998)
C-7	National Council of Secondary Teachers of Japanese & Association of Teachers of Japanese (1999) 『Standards for Foreign Language Learning in the 21st Century』
C-8	Van EK & Trim (2001) 『Waystage Level』
C-9	中华人民共和国教育部 (2001) 『日语课程标准』北京师范大学出版社
C-10	韓国教育部 (2001) 『第七次教育課程』
C-11	国家汉语国际推广领导小组办公室 (2007) 『国际汉语能力标准』
C-12	国際交流基金 (2010) 『JF日本語教育スタンダード』
C-13	東京外国語大学留学生日本語教育センター (2011) 『JLC日本語スタンダード』
C-14	日本学生支援機構日本語教育センター (2016) 『JLEC日本語スタンダード』
C-15	北海道大学国際教育センター (2016) 『北海道大学日本語スタンダード』

しかし、スタンダードには具体的な語彙や文型の項目は明記されていません。では、どのように実践内容は組み立てるのでしょうか。安定期に教材作成をされた方々へのインタビューにてお話を伺いました。



協力者	教科書発行年	調査日	調査地
IA1	Book 01-1 (2008)	2016.09.23	東京都
IA2	Book 01-2 (2009)		
IB1	Book 02-1 (2002)	2016.10.17	東京都
IB2	Book 02-2 (2002)		
IC1	Book 08 (2011)	2017.10.22	東京都

文型の選び方



IA2氏

今出てる初級のテキストとかを検討して、この本にはこれ出てないとかね、そういうのは個別には見ていきましたね。 (IA145)
使う先生たちがどうしてあれ入ってないんだろうとか、これが入ってないとそのあと困るとかね。そういった部分の心配がないようにしたいというのもありましたので。 (IA151)



て形、何とか形、動詞の活用は全部入れましょうと。
それに関連するメインな文型も入れましょうっていうよ
うなことは意識しましたが。 (IB354)

IB2氏

**安定期の文型は、普遍性・網羅性を考慮して、
既往の教材や日本語能力試験などをもとに決
められている。**

語彙の選び方



さまざまなトピックや場面を出しました。その上で、どういう場面にするか、どういうトピックにするかといったことを話し合い、最終的にあのような形になりました。(IC19)
とにかく一番合っていると思った場面にしました。(IC21)



彼ら（※学習者）も生活者なわけで、（中略）自分の意志を相手に伝えるとか、
そういうことのために必要な日本語なので。(IA186)

とにかく私たちは今の社会に聞かれたテキストにしたいということで、そういう
を載せたい。やっぱり、
というふうなことで、リサイクルとかだって必要な語彙なんで。(IA190)
新しい時代の新しい必要な言葉とか、そういう部分はやっぱりもし改訂するんなら
な、入れたい。かがきい。

**安定期の語彙は、学習者の生活を考慮した
場面やトピックをもとに決められている。**

なぜ、日本語教育では 直接コーパスが参照されないのか



コーパスも見ていたんですけども、書き言葉の文献から引っ張ってきたものが多いんですね。そうしたそれよりもみんなの感性のほうが正しいと思います。公の場面での使用頻度がそんなに高くないでも、私たちが日常生活の中でたくさん使っている語彙っていうのは別にある。私たちはやっぱり生活してるわけですから。その自分たちの感性を信じようと。

(IA179)

年代	割合(数)	具体例
50s	8% (344)	赤帽、あすこ、いたずらな、いんげん、馬市、うまや、売り子、かくせいき、蕪、汽車賃、銀二郎 つく、娯楽放送、じびきあみ、職工、新三郎、せともの屋、ぞうり、そんなら、ちちうえさま、～ チョコキ、つんぼ、ていしゃば、手ぬぐい、天火、でんわきよく、トタン、友三郎、ニュースえい がね、はしらどけい、馬主、はまき、はるきち、ハンケチ、火の粉、ほかけ船、まきたばこ、まく めくら、メリケン粉、雪江、洋館、りはつ屋
60s	21.84% (939)	E-はがき、愛国心、あの世、あらい場、あるかなきか、家元、煎る、いんべ焼、宇治、乳母、う え、エゴ、エンゲル係数、送り火、おしピン、おそなえ、おともする、お守り役、回教徒、かが 家計支出、かせいソーダ、かま場、かやぶき、かわさき重工業、聞きわけ、貴族社会、クーデタ 主義、軍部、月しゃ、原子、げんぱく、げんぱくの町、自動ろ出計、資本家、宗教しんぶん、白 政治小説、政党しんぶん、そんちょう、畜産、帳場、ヒューマニズム、ビュッフェ、古どうぐ屋 シリン、ポートタワー、捕鯨、ポンド・ヤード制、民主主義、むつかしい、目方、めのと、文殊 リスト、ローマン主義、露出計、ワンマン・カー
70s	23.63% (1,016)	あけぼの、営業課、エロ、グロ、ナンセンス、おうせつま、オブザーバー、化学繊維、かかりつ ヤディ、グループ旅行、軽工業、ケネディ、乞食、サービス業、三LDK、氏姓制度、自然主義者 党、事務機械、ジャパノロジスト、就学率、集中教育、出張旅行、女史、ズームレンズ、総合雑 フトクリーム、妙子、弾圧、ツーピース、鉄火、テレビっ子、～堂、にぶい、ネガカラー、廃液 埴輪、バンガロー、ピフテキ、ポジ、ポピュラー音楽、無常、ローマ字化、ロマン・ロラン
80s	11.44% (492)	E・T、海老フライランチ、カードボックス、カニコロックランチ、こくさいがくぶ、サーロインステ スリット、生協、チーズケーキ、ティーパーティー、デイリーランチ、デューティーフリー、パッ パー、ハムサンド、ビーフシチュー、ブラウジングルーム、ポークカツ、ミートスパゲッティ、ミ ラジオカセットレコーダー、リムジンバス、レーザー
90s	11.28% (485)	アクセス、アナウンスする、ウェイター、大江健三郎、カセットテープ、キャプテン・クック、 ック、クレーン、コインロッカー、コーヒーポット、こくさいかんけい、国際経済、国際問題、 スト、コンパ、コンパクト、サーフィン、再入国ビザ、ジム、スキー場、セミナー、タンゴ、ち テレビゲーム、電子図書館、電子メール、ドラえもん、ぬいぐるみ、ノーベル文学賞、パッキン オーメーション、ホワイトデー、水不足、ミリオン、やくざ、留守番電話、ワゴン車、ポケベル
00s	23.81% (1,024)	J-ポップ、OKする、USJ、アウトドア、アリバイ、イエローカード、イヤホーン、インターンシ ウォークマン、宇宙ステーション、エレクトーン、オプションツアー、カウンセラー、カジュア カップめん、カラオケボックス、ギフト券、キャンプ場、牛乳パック、クーポン、クッション、 ン車、クロール、広告会社、合コン、ゴルフツアー、コンピューターしつ、サウナ、写真コンテ シュークリーム、シュートする、商品券、スカウトする、スノーボード、スパイ、スロープ、ダ グ、ダウンロードする、データサービス、デラックスコース、ドライクリーニング、トリック、ナ プール監視員、フレックスタイム、ブログ、プロジェクター、ロボット工学

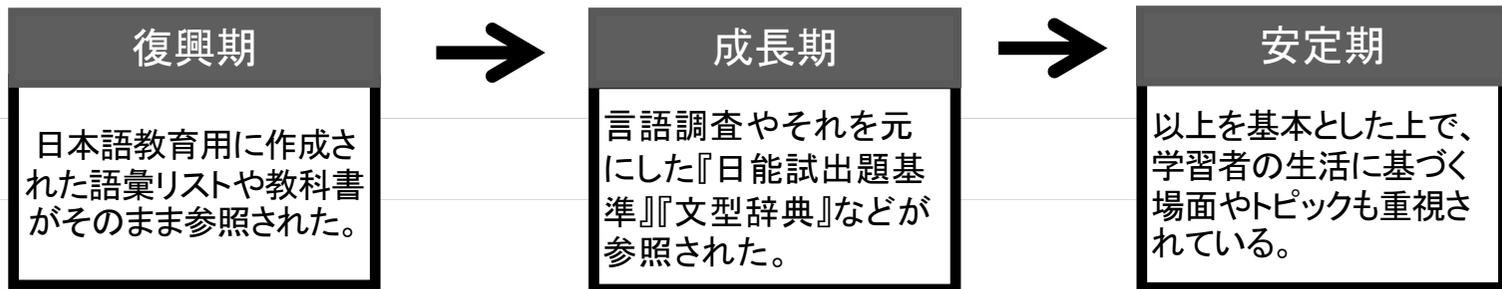
本日の流れ

1. 日本語教育と言語資源

2. 日本語日常会話コーパスの位置付け

3. オラリティにまつわる言語資源の可能性

以上、戦後の日本語教育の流れから
どのような形で言語資源が利用されてきたかを俯瞰しました。



現在、日本語教育では、学習者が実際に生活する際に使う話しことばも重視されていると言えます。言い換えれば“オラリティ”に目を向けた考察が求められているとも考えられます。

オラリティとは「**声の文化**」を意味し、文字の文化をあらわすリテラシーと対比される概念です。日本に生きる日本語非母語話者が、各環境の中で豊かに生活し自己実現を果たすためには、さまざまな場面（自宅・職場・屋外など）で、さまざまな相手（家族・友人・同僚・店員など）との日常生活におけるオラリティに根ざした直接性の高いコミュニケーションを行う必要があります。

“日常生活”の話しことばを重視

『日本語日常会話コーパス』

日本語による日常会話を映像記録し
200時間分をコーパス化する。

『昭和話し言葉コーパス』

昭和期に録音された話し言葉を50時間
分コーパス化する。

復興期

終戦～1950年代

日本語教育用に作成された語彙リスト
や教科書がそのまま参照された。

成長期

1960年代～1990年代

言語調査やそれを元にした
『日能試出題基準』『文型辞典』
などが参照された。

本日の流れ

1. 日本語教育と言語資源

2. 日本語日常会話コーパスの位置付け

3. オラリティにまつわる言語資源の可能性

質的な
利用可能性

【T010_009】

人物：大学教員・学生

世代：40-44歳・20-24歳

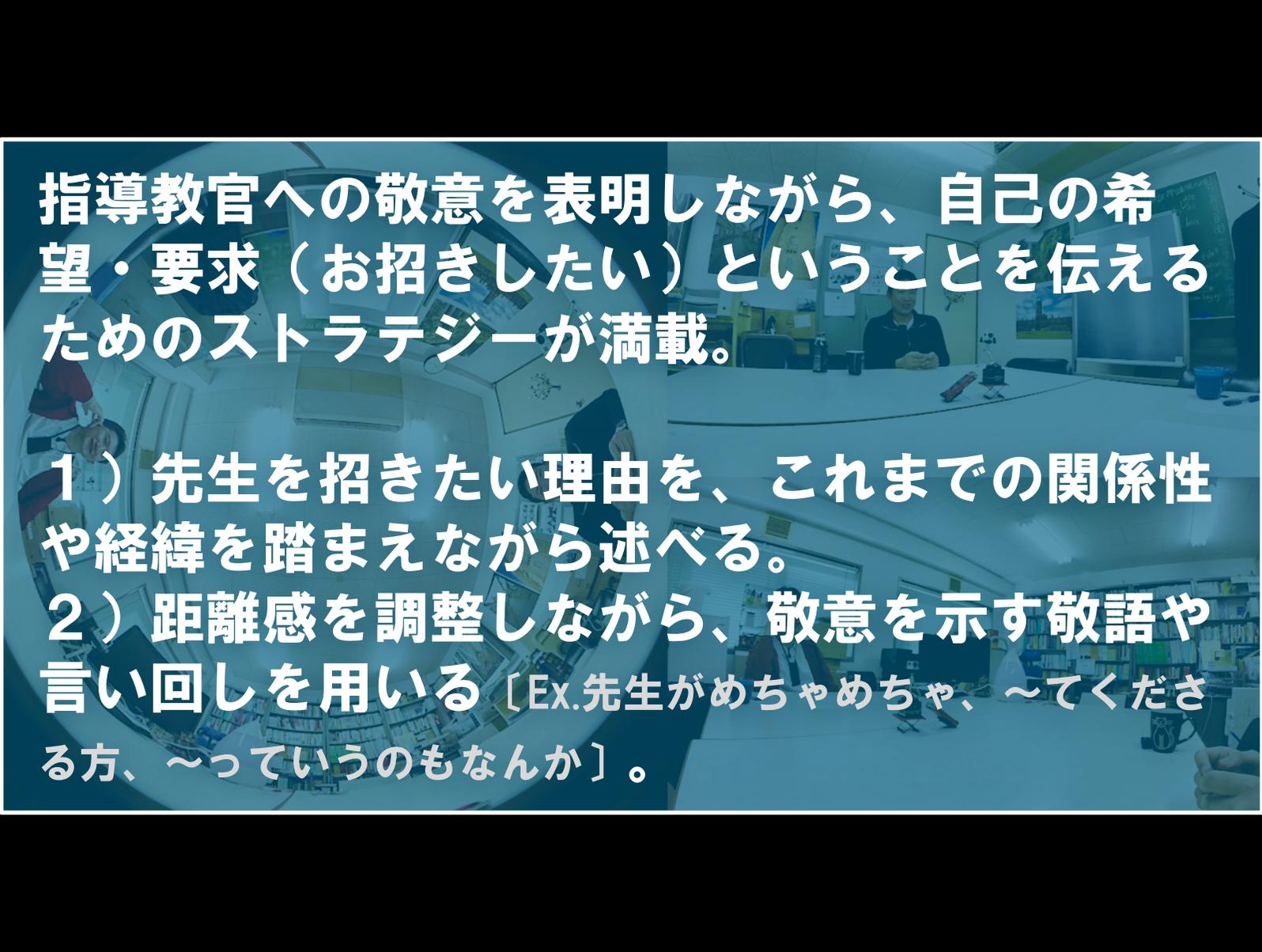
場面：大学でゼミの先生と追いコンについて相談

状況：大学の研究室でゼミの先生と4年生の
追い出しコンパの企画等について相談。

『日本語日常会話コース』



**卒業生全員（四年生）と、多忙な指導教官との
スケジュール調整が難航し教師が参加を諦めかけた際に、
ゼミの宴会部長が指導教官に参加してほしいと交渉する。**



指導教官への敬意を表明しながら、自己の希望・要求（お招きしたい）ということを伝えるためのストラテジーが満載。

- 1) 先生を招きたい理由を、これまでの関係性や経緯を踏まえながら述べる。
- 2) 距離感を調整しながら、敬意を示す敬語や言い回しを用いる [Ex.先生がめっちゃめっちゃ、～てくださる方、～っていうのもなんか]。

【K001_016】

人物：会社員女性・会社員女性・自営業女性・パート女性

世代；35-39歳・35-39歳・45-49歳・40-44歳

場面；時々行くカフェで店のスタッフも交え友人と雑談

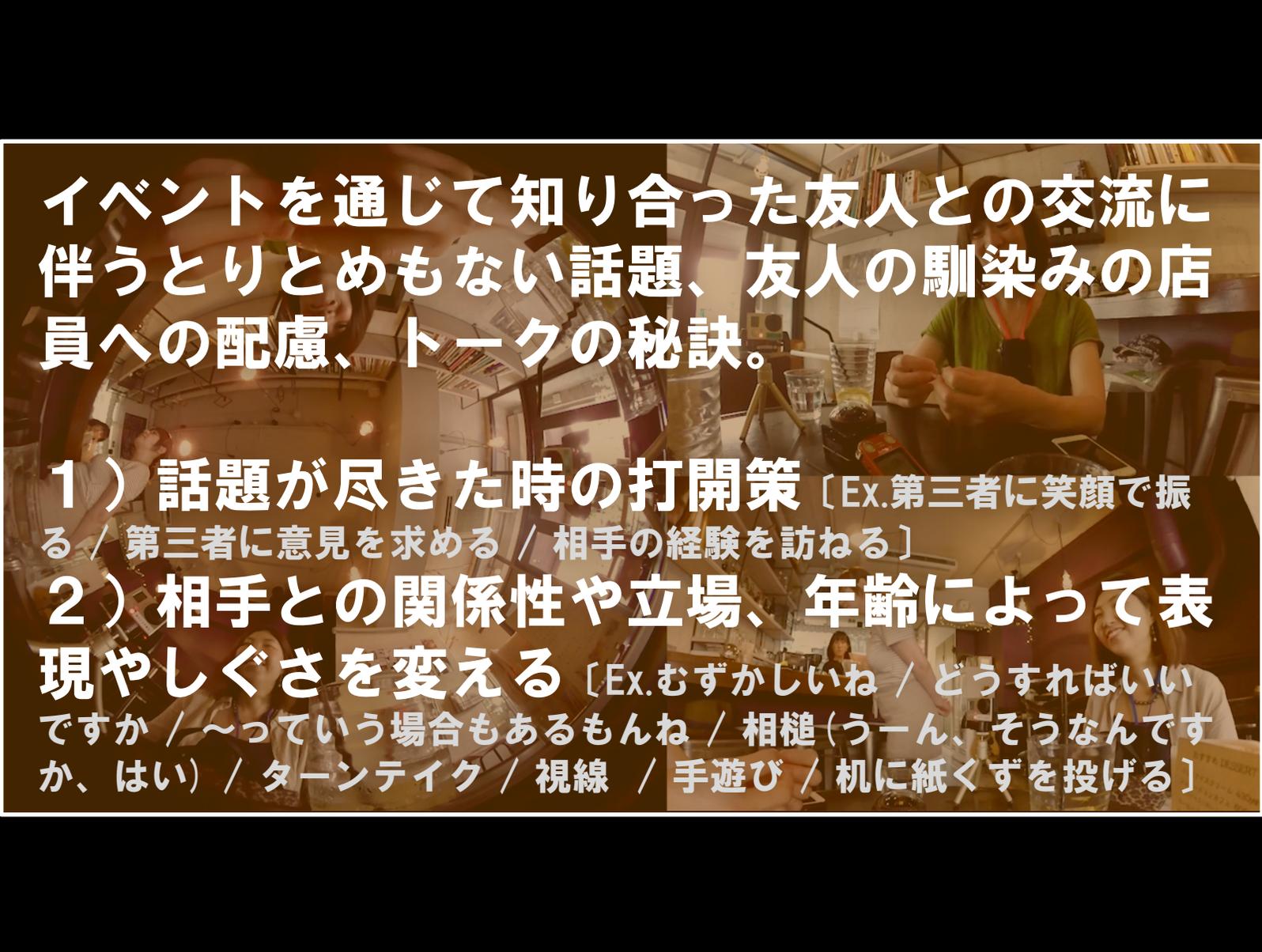
状況：友人である中根と、店のスタッフである舞。

スタッフは仕事に合わせて会話を出入りしている。

『日本語日常会話コーパス』



恋愛について相談している。
どうすれば良い人にめぐり合い結婚できるのか、
悩んだ末、カフェの店員さんに意見を求める。



イベントを通じて知り合った友人との交流に伴うとりとめもない話題、友人の馴染みの店員への配慮、トークの秘訣。

1) 話題が尽きた時の打開策 [Ex. 第三者に笑顔で振る / 第三者に意見を求める / 相手の経験を訪ねる]

2) 相手との関係性や立場、年齢によって表現やしぐさを変える [Ex. むずかしいね / どうすればいいですか / ~っていう場合もあるもんね / 相槌(うーん、そうなんですか、はい) / ターンテイク / 視線 / 手遊び / 机に紙くずを投げる]

【T009_017】

人物：女子学生・男子学生

世代：20-24歳

関係：恋人

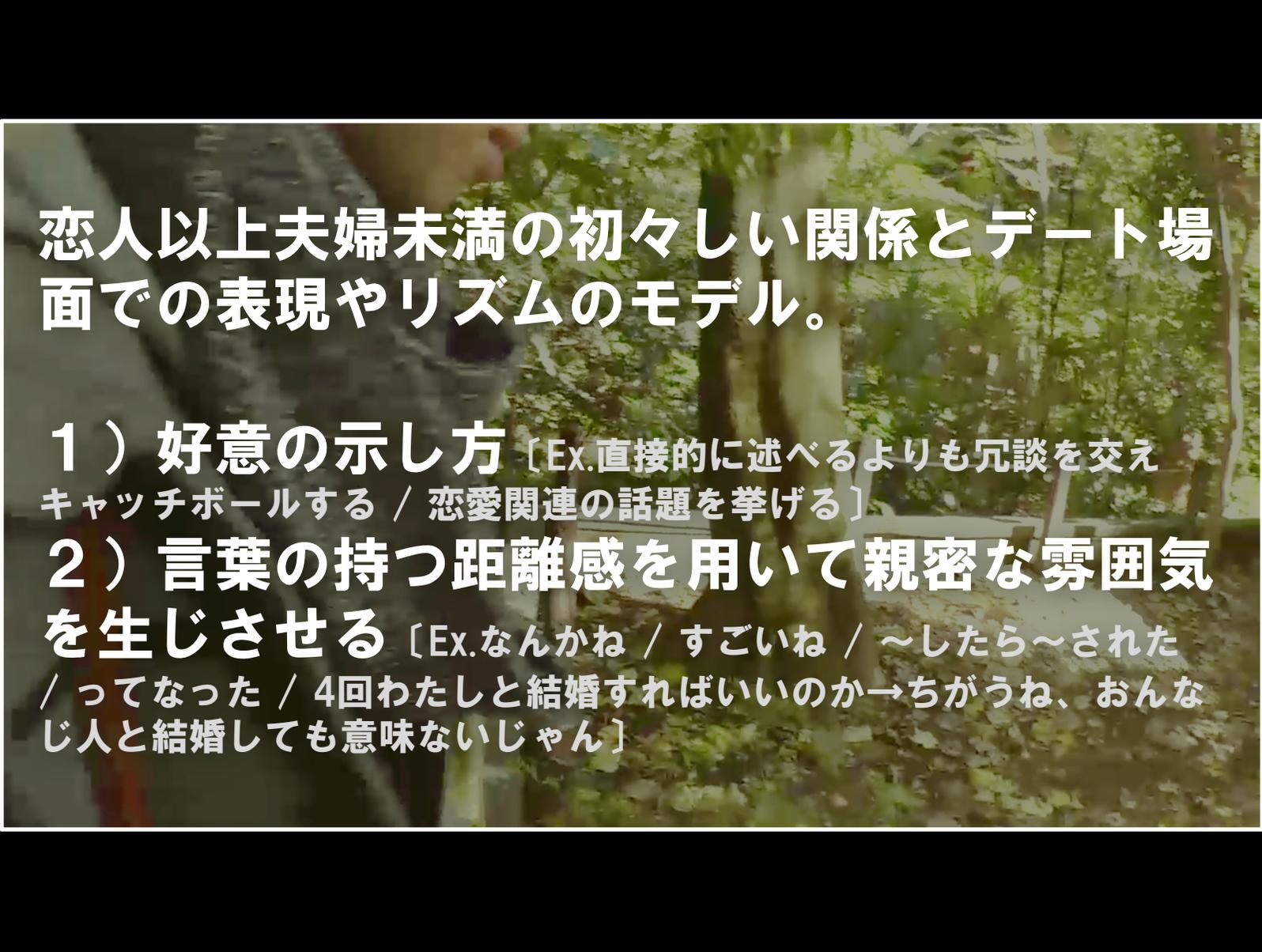
場面：溪谷を恋人と散策しながら雑談

状況：恋人と等々力溪谷を散策しながら友人の話や近況報告

『日本語日常会話コース』



**彼女が友人の恋愛事情を話題にしたところ
彼氏が「4回目の結婚で成功するはず」という自身の結婚観を述べ、
彼女が改めて好意を伝える。**



恋人以上夫婦未満の初々しい関係とデート場面での表現やリズムのモデル。

1) 好意の示し方 [Ex.直接的に述べるよりも冗談を交え
キャッチボールする / 恋愛関連の話題を挙げる]

2) 言葉の持つ距離感を用いて親密な雰囲気
を生じさせる [Ex.なんかね / すごいね / ~したら~された
/ ってなった / 4回わたしと結婚すればいいのか→ちがうね、おんな
じ人と結婚しても意味ないじゃん]

量的な

利用可能性

【T010_009】

人物：大学教員・学生

世代：40-44歳・20-24歳

場面：大学でゼミの先生と追いコンについて相談

状況：大学の研究室でゼミの先生と4年生の追い出しコンパの企画等について相談。

場面、状況、関係性、トピックを踏まえた適切な語彙や表現を把握することができる。また“適切性”が極めて幅広く、豊かであることに気付くことができる。

【K001_016】

人物：会社員女性・会社員女性・自営業女性・パート女性

世代；35-39歳・35-39歳・45-49歳・40-44歳

場面；時々行くカフェで店のスタッフも交え友人と雑談

状況：友人である中根と、店のスタッフである舞。

スタッフは仕事に合わせて会話を出入りしている。

高い くれる ちゃう うわー 興味 正しい 珍しい 食べる 探す かわいい 慣れる あたし そうだ 違う

可愛い 若い 思う 理恵 タイ料理 そうだ 子供 長い 一緒に 一人 毎回 大丈夫

場の雰囲気に応じた共感や共有、協調を示す

表現を把握することができる。

絶対 吉祥寺 早い 走る いや ありがとう ほんとう

安い 結婚 欲しい 四角い ごい ゆう 織物 はーい 言う 難しい

最初 行ける トピックス 出会う 良い うい もらう 体験 好き いい 楽しい

■ 名詞 ■ 動詞 ■ 形容詞 ■ 感動詞

【T009_017】

人物：女子学生・男子学生

世代：20-24歳

関係：恋人 **あったかい**

黄色い **色濃い**

ゆる ちゃう 入る

場面：溪谷を恋人と散策しながら雑談

掛ける 落ちる

状況：恋人と等々力溪谷を散策しながら友人の話や近況報告

世界史 **洗い** **確か**

いける

環境特有の語、話し手の属性特有の語、明確な目的に基づく表現を把握することができる。

キャンパス 撮る 意味

しょぼい

顔 タイム

行ける 思い

濃い

あたし きれい

銀杏

倒置

やばい

冷たい

違う

食べる 友人 すごい

幼い

っぽい **かわいい** 書く

■ 名詞 ■ 動詞 ■ 形容詞 ■ 感動詞

昭和話し言葉

コーパスの利用可能性

『昭和話し言葉コーパス』

昭和期に録音された話し言葉を50時間分コーパス化する。

おいしい 頼り マル 食う 重い 取る 長い 行く
 とる 外れ 作る 大きい 悲しい

表 6: 「断定型」に分類された代表的な表現形式 (2)

年代毎の表現や発音の特色に加え、話し言葉として年代を超えて用いられてきた普遍的な表現の把握にも役立つ可能性がある。

表現形式	大正	昭和前期	昭和10年代	平成
確	74 (10.3%)	230 (18.5%)	275 (18.7%)	15 (0.2%)
述	76 (10.6%)	135 (10.9%)	172 (11.7%)	136 (17.0%)
定	26 (3.6%)	59 (4.8%)	114 (7.7%)	874 (10.9%)
ませ	18 (2.5%)	25 (2.0%)	42 (2.9%)	251 (3.1%)
ル形	50 (6.9%)	52 (4.1%)	32 (2.2%)	81 (1.0%)
文語体	23 (3.2%)	8 (0.6%)	20 (1.4%)	7 (0.1%)

出典：丸山岳彦 (2016) 大正・昭和前期の演説に現れる文末表現のバリエーション 『SP盤演説レコードがひらく日本語研究』, 271-291

まとめ

1

現代の話し言葉の世界をより正確に豊かに把握できます。
そして、身振り手振りや語気、リズムなど、これまで扱えなかった“オラリティ”を深く理解することにもつながります。

2

現在の話し言葉だけでなく過去のものも通時的に参照できることで言葉の世界の確実な見通しがつき、学習者の将来に向けた日本語教育の指標となると考えられる。

3

当事者を映像と音声で記録する両コーパスは、日本語教育が捉えようとしている生活言語をより身近で主体的検討が可能なものとし人々が共に豊かなことばの世界を構築するための言語資源として大きな展望を示すものと考えられます。

《参考文献・資料》

岩田一成（2015）日本語教育初級文法シラバスの起源を追うー日本語の初級教科書はなぜこんなに重いのか？ー『聖心女子大学論叢』126, 聖心女子大学, 87-110

グループ・ジャマシイ（1998）『日本語文型辞典』くろしお出版

小磯花絵（2015）編著『話し言葉コーパスー設計と構築ー』朝倉書店

国際交流基金・日本国際教育協会（1993）『日本語能力試験出題基準』

国際交流基金（2018）『JFスタンダードとは』

<<https://jfstandard.jp/summary/ja/render.do>>

国際文化振興会（1944）『日本語基本語彙』

国立国語研究所（2018）『写真で見る国立国語研究所の歴史』

<<http://www2.ninjal.ac.jp/photo/3.html>>

田中祐輔（2015）第九章 初級総合教科書から見た文法シラバス. 山内博之（監修）／庵功雄・山内博之（編）『現場に役立つ日本語教育研究1 データに基づく文法シラバス』くろしお出版, 167-192

田中祐輔（2016）第一章 初級総合教科書から見た語彙シラバス. 山内博之（監修）／森篤嗣（編）『現場に役立つ日本語教育研究2 ニーズを踏まえた語彙シラバス』くろしお出版, 1-27

田中祐輔（2016）「日本語教材目録データベース（ver.1.0）」

<http://www.9640.jp/books_716/>

田中祐輔・川端祐一郎（2018）戦後の日本語教科書における掲載語彙選択の傾向とその要因に関する基礎的定量分析『日本語教育』170, 78-91

田中祐輔（2018）第五章 語彙に着目した日本語教科書作成プロセスの歩み. 山内博之（監修）／岩田一成（編）『現場に役立つ日本語教育研究6 語から始まる教材作り』くろしお出版, 59-73

田中祐輔（2019）日本語教育の「文型」に生きる国語教育—戦後の初級教科書五九文型はどこからきたのか—『月刊国語教育研究』561, 日本国語教育学会, 42-49

田中祐輔（2019）第三章 日本語教育スタンダードと『外国語学習のめやす』. 田原憲和（編集）『他者とつながる外国語授業を目指して—「外国語学習のめやす」の導入と活用—』三修社, 58-78

長沼直兄（1931）『標準日本語読本巻一』

長沼直兄（1955）『標準日本語読本巻一』

日本学生支援機構（2017）『平成29年度外国人留学生在籍状況調査結果』

文化庁文化部国語課（2016）「国内の日本語教育の概要」

丸山岳彦（2016）大正・昭和前期の演説に現れる文末表現のバリエーション『SP盤演説レコードがひらく日本語研究』, 271-291

《コーパス》

『日本語日常会話コーパス』（構築中）

『昭和話し言葉コーパス』（構築中）

《分析対象教科書》

1950s (3種3冊)	
Text 01	長沼直兄 (1955) 『改訂標準日本語読本巻一』 長風社
Text 02	国際学友会日本語学校 (編) (1954) 『日本語読本』 (巻1) 国際学友会
Text 03	国際学友会日本語学校 (1954) 『NIHONGO NO HANASIKATA』 国際学友会
1960s (2種3冊)	
Text 04	小川芳男・佐藤純一 (1963) 『日本語四週間』 大学書林
Text 05	大阪外大留学生別科 (1967) 『BASIC JAPANESE 1-2』 OSAKA UNIVERSITY OF FOREIGN STUDIES
1970s (4種6冊)	
Text 06	東京外語大学附属日本語学校 (1970) 『日本語 1』 東京外語大学附属日本語学校
Text 07	小出詞子 (1971) 『Easy Japanese 1-3』 LET'S COMPANY
Text 08	吉田弥寿夫他 (1973) 『あたらしい日本語』 学研
Text 09	国際交流基金 (1974) 『日本語入門』 国際交流基金
1980s (4種5冊)	
Text 10	名古屋大学総合言語センター日本語学科 (1983) 『A COURSE IN MODERN JAPANESE 1-2』 University of Nagoya Press
Text 11	早稲田大学語学研究教育センター (編) (1984) 『外国学生用基礎日本語』 早稲田大学語学研究教育センター
Text 12	文化外国語専門学校日本語科 (1987) 『文化初級日本語 I』 凡人社
Text 13	言語文化研究所附属東京日本語学校 (1988) 『長沼新現代日本語 I』 言語文化研究所
1990s (4種9冊)	
Text 14	海外技術者研修協会 (1990) 『しんにほんごのきそ I-II』 スリーエーネットワーク
Text 15	国際基督教大学著 (1996) 『ICUの日本語 初級 1-3』 講談社インター
Text 16	スリーエーネットワーク (1998) 『みんなの日本語初級 1-2』 スリーエーネットワーク
Text 17	坂野永理・大野裕・坂根庸子・品川恭子 (1999) 『初級日本語 [げんき] 1-2』 The Japan Times
2000s (4種8冊)	
Text 18	文化外国語専門学校 (2000) 『新文化初級日本語 I-II』 凡人社
Text 19	岡本輝彦・木川和子・辻本澄子・西尾節子・松井充子 (2002) 『【初級】語学留学生のための日本語 I-II』 凡人社
Text 20	TIJ東京日本語研修所 (2006) 『はじめよう日本語 初級 1-2』 スリーエーネットワーク
Text 21	山崎佳子・石井怜子・佐々木薫・高橋美和子・町田恵子 (2008) 『日本語初級 1-2 大地』 スリーエーネットワーク

《謝辞》

- ✓ 本発表は国立国語研究所の共同研究プロジェクト「大規模日常会話コーパスに基づく話し言葉の多角的研究（略称「日常会話コーパス」）」の研究成果を報告したものである。
- ✓ 本発表におけるインタビューデータは、平成30年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（若手研究）「日米中における『日本理解』を果たした日本語教育を巡る人的・知的交流の現代史」（課題番号：18K12432）の成果の一部である。
- ✓ 本発表に関わる研究の推進に際し、丸山岳彦氏（専修大学・国立国語研究所）・小磯花絵氏（国立国語研究所）にデータの提供を受けた。ここに記して感謝申し上げます。